

今月の新着本



西口ライブラリーに新しく入った本を
一部紹介します。

AI 以後 丸山 俊一・NHK 取材班 編著／NHK 出版(007-エアイ)	黄金列車 佐藤 亜紀 著／KADOKAWA(F-サトウ)
明智光秀 早島 大祐 著／NHK 出版(289-アケチ)	ゆゆのつづき 高楼 方子 著／理論社(F-タカド)
歴史人物怪異談事典 朝里 樹 著／幻冬舎(388-アサザ)	セバット・ソング 谷村 志穂 著／潮出版社(F-タニム)
胃を切った人のための毎日おいしいレシピ250 木下 敬弘・千歳 はるか 監修／学研プラス(493-イオキ)	沈黙の目撃者 西澤 保彦 著／徳間書店(F-ニシザ)
電池 BOOK 神野 将志 著／総合科学出版(572-ジンノ)	サイレント・ブルー 樋口 明雄 著／光文社(F-ヒグチ)
枝元なほみの今夜はおでん 枝元 なほみ 著／技術評論社(596-エダモ)	大江戸少女カゲキ団 1 中島 要 著／角川春樹事務所(PF-ナカジ)
「松本清張」で読む昭和史 原 武史 著／NHK 出版(910.2-マツモ)	毒殺倶楽部 松下 麻理緒 著／朝日新聞出版(PF-マツシ)
通夜女 大山 淳子 著／徳間書店(F-オオヤ)	わらしべ悪党 和田 はつ子 著／幻冬舎(PF-ワダハ)

浪漫紀行 福島

「福島まさる」は、県北地方にみられる郷土玩具です。竹でできた弓に弦を張り、そこに猿にみたてた土製の鈴を通したシンプルなつくりをしています。鈴が上から下へ落ちるときに、コロコロと独特な音を鳴らします。弓の先には日の丸などの小さな旗を飾り、鈴にはうさぎやにわたりの毛を付けることもあるそうです。その歴史は古く、天保12年(1841)の史料にもその名が記されていました。「まさる」には「真猿」「魔が去る」「去年にまさる、福まさる」といった意味が込められており、年末年始の縁起物として福島稲荷神社の年の市・初詣や信夫三山暁まいりなどで売られます。持ち帰った「福島まさる」は神棚に飾り、その年の幸運を祈願します。

参考文献:『福島市史 別巻3』福島市教育委員会内福島市史編纂委員会 編纂／福島市教育委員会 (K212.6-フクシ)
『福島県民百科』福島民友新聞社福島県民百科事業本部 編／福島民友新聞社(K291.2-フクシ)
『ふくしま福の神さま』小林 金次郎 著／歴史春秋社(K387-コバヤ)

クイズの答え

答え ハコベラ

ナズナはペンペン草、スズナは蕪、スズシロは大根のことです。
意外と身近にある植物ですね。

図書館カレンダー 1月

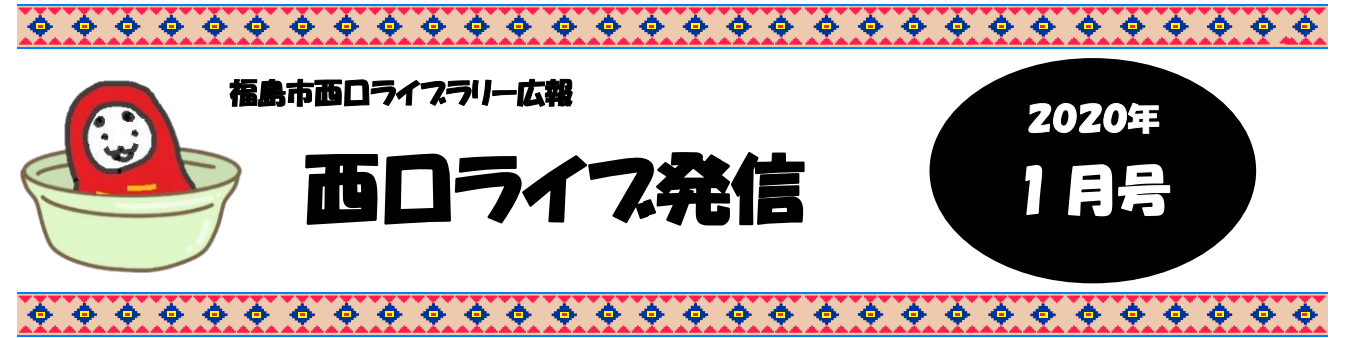
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

印は休館日

2020年1月4日発行

編集：福島市西口ライブラリー
〒960-8053
福島市三河南町1-20
TEL024-525-4023
発行：福島市立図書館
〒960-8018
福島市松木町1-1
TEL024-531-6551

ホームページ：
<http://www.city.fukushima.fukushima.jp/tosyo-kanri/kanko/toshokan/>
ふくしまウェブ携帯版アドレス：
<http://www.city.fukushima.fukushima.jp/mobile>



福島市西口ライブラリー広報

西口ライフ発信

今月の新着本案内



『国宝ロストワールド』

岡塚 章子・金子 隆一・説田 晃大 著
小学館(709-コクホ)

文化財写真の名手21人が撮影した国宝の写真33枚を収録。焼失して現存していない法隆寺金堂壁画や、修復前の腕が折れた興福寺阿修羅像なども含まれます。今では見ることができない国宝の姿を私たちに伝えてくれます。



『15秒から始めるウケるスマホ動画入門』

戸田 覚 著／青春出版社
(007-トダサ)

55歳から動画配信を始めたオジサンはどのようにして視聴者の心を掴んだのか？ 基本的な動画の編集から、実践的な配信方法まで、誰でもマネできるテクニックが満載です。

この本と一緒に動画デビューをしてみませんか。



『世界の少数民族』

イアゴ コラツツァ、グレッタ ローバ 著 竹花 秀春 訳 金丸 良子 日本語版監修
日経ナショナルジオグラフィック社(382-コラツ)

巨大な半月型の髪飾りをつける長角ミャオ、全身に泥を塗り恐ろしい仮面を被ったアサロ、かつて首狩りを行っていたコニャック・ナガ…。いつか消えてしまうかもしれない貴重な少数民族の姿を、鮮やかな写真と共に語ります。



『親の健康を守る 実家の片づけ方』

永井 美穂 著／大和書房
(597-ナガイ)

ものがあふれる実家が、つい気になって親と揉めてしまう…なんてことはありませんか？ 片づけヘルパーである著者が、高齢者に向く収納方法や円満に片づけるノウハウを紹介。安全を優先した整理術を伝授します。



『万葉集であるく奈良』

上野 誠・蜂飼 耳・馬場 基 著
新潮社(911.1-マンヨ)

万葉集に収められている歌のうち、約900首は奈良の地名にちなんだものです。本書ではその地の写真とともに歌を掲載。Q&A形式の解説や大和三山登山レポ、木簡に記された人々の生活を読み解くことで、万葉集について深く知ることができます。



おすすめ本

職員が選ぶ「この一冊」!

NO
IMAGE

『本屋の新井』

新井 見枝香 著/講談社
(024-アライ)

著名な文学賞受賞作よりも売れることもある、「新井賞」を設立した現役書店員のエッセイ集。淡々としつつもクスッと笑える独自の感性で本の感想を綴ります。紹介されたものが気になってくる、本への思いに溢れた1冊です。



『春の旅人』

村山 早紀 著・げみ イラスト
立東舎(F-ムラヤ)

“あたし”が憧れるさゆりさんは、公園やよその家の庭先にこっそり花の種をまく“花ゲリラ”をしていた。凜とした彼女と一緒に行動するうちに、自分の弱さが情けなくなり、ある秘密を吐露するが…。(「花ゲリラの夜」より)他2編。

『なるほどわかったコンピューターとプログラミング』

ロージー・ディキンズ 文 ショー・ニールセン 絵 福本 友美子 訳
ひさかたチャイルド(B00-デイキ)

2020年度より小学校で必修化されるプログラミングとはどのようなものなのか。コンピューターの仕組みやプログラミングの便利さと面白さについて、易しい言葉で分かりやすく説明しています。入門書として大人も子供も楽しめる仕掛け絵本です。



『ディス・イズ・ザ・デイ』

津村 記久子 著/朝日新聞出版
(F-ツムラ)

疎遠だった祖母が、サッカー観戦にハマっていることを知った孫の周治。その年の最終戦、周治は祖母をスタジアムに招待する。(「おばあちゃんの好きな選手」より)

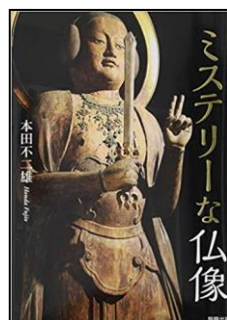
サッカーサポーターたちの「最終戦」を描く連作短編集です。



『ミステリーな仏像』

本田 不二雄 著/駒草出版
(718-ホンダ)

首を傾けている見返り像の視線の先にあるものとは何か。鬼形の鬼子母神に人の髪が植え付けられた理由とは? 自らを“神仏探偵”と称する著者が、120体のさまざまな仏像に秘められた謎に迫ります。

野崎 六助
(のざき ろくすけ)

1947年東京生まれ。京都で育つ。作家・文芸評論家。コック、大工などの職を経て84年に『幻視するバリケード』で評論家デビュー。92年には『北米探偵小説論』で日本推理作家協会賞を受賞。94年には『夕焼け探偵帖』で小説家としてもデビューする。



安吾探偵控

東京創元社(F-ノザキ)

下宿先の娘が家出をしたため、坂口安吾は捜索を依頼される。紅酒蔵の柳子という女性と一緒に行動をしていると情報を得て、酒蔵へと向かうが、そこで殺人事件に遭遇。被害者は酒蔵の婿養子で、雪の降り積もる倉庫で発見された。現場には被害者の足跡しかなく、密室のような状態であった。果たして、犯人はどんな手段で足跡を残さずに立ち去ったのか…。安吾が助手の小僧とともに謎に挑む。

～隠し部屋～

横溝正史の『びっくり箱殺人事件』に、同姓同名の人物が出てくる。ペンネームをそこからとったのではと指摘されたが、実際は好きな作品であったのに、記憶に残っていなかった。

～その他の作品～

『前世ハンター』2001年
『給食ファクトリー』1998年
『幻灯島、西へ』1994年

など

クイズ解かっせ

1年の無病息災を願って1月7日に食べる七草粥に使われる春の七草。

セリ、ナズナ、ゴギョウ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ

あともう1つは何でしょうか?



※答えは最後のページ